

令和元年度 第2回伊東市政モニター会議録（要旨）

日 時 令和元年9月26日（木）午後1時30分～3時

場 所 市役所7階 特別会議室

出席者 市政モニター8人（全員出席）

市長、若山副市長、中村副市長、杉本企画部長、行政経営課長、
市政戦略課長、行政経営課主査、担当

1 開会

2 市長あいさつ

・今回は「第五次伊東市総合計画」をテーマとして御意見を伺いたい。タウンミーティング全16会場においても順次伺っているところであり、皆様からの意見を生かし今後10年間の伊東市の道しるべとなる計画づくりを進めていく。

・モニター通信で松川遊歩道整備についての提言を頂いた。今年度も HIKARI to YUKATA にぎわい演出事業として東海館での浴衣レンタルや松川遊歩道のイルミネーション整備を進めているところであり、提言を尊重しながら進めていきたいと考えている。

3 モニター自己紹介（第1回会議欠席者 省略）

4 懇談

第五次伊東市総合計画についての説明（行政経営課主査）

第五次伊東市総合計画策定についての御意見及び日頃思っていることや伊東市の将来、地域の課題などについての意見交換

【モニターA氏】

総合計画は誰のために作るのでしょうか。冊子は全市民に配布されていないと思いますが、何冊作成しているのでしょうか。

【行政経営課長】

総合計画は伊東市の進むべき方向を体系的にまとめたものであり、全世帯へ配布はしていませんが、市政情報コーナーや市ホームページで閲覧可能です。第四次総合計画策定の際は1,000部作成しております。

【モニターA氏】

同様の計画は何回作られていますか。作るきっかけは何だったのでしょうか。

【杉本部長】

昭和48年度から昭和60年度までは第一次伊東市総合開発計画、昭和61年度から平成12年度までは第二次伊東市総合計画、平成13年度から平成22年度までは第三次伊東市総合計画、平成23年度から令和2年度までは第四次伊東市総合計画です。

【中村副市長】

以前は法律の規定により必ず策定する必要があり、全自治体で策定しておりました。

【モニターA氏】

現在策定するかどうかは各自治体の判断でしょうか。

【中村副市長】

その通りです。ほとんどの自治体は策定しているものと思われます。

【モニターB氏】

計画策定の今後のスケジュールはどのようになっていますか。

【行政経営課主査】

今年度中に基本構想案、来年度には基本計画案を決定し来年12月の市議会にお示ししまして、冊子としては令和2年度の3月に出来上がる予定です。

【モニターA氏】

ホームページへの公開も同じ時期になるのでしょうか。

【行政経営課主査】

総合計画が出来上がりましたら掲載することはもちろんのこと、タウンミーティング等により皆様からいただいた御意見等、策定経過も含めお知らせする必要があるものと考えております。

【モニターC氏】

全国的な問題ではありますが、伊東市でもかなり少子高齢化が進んでいる印象です。若い人が伊東に戻りたいと思えるような住みやすい街になることを望みます。若い子育て世代の費用負担を軽減する手立てがあると良いと思います。

また、欲を言えば、若者が戻ってくるだけでなく、若い夫婦から移住先として選ばれるような魅力があればと思います。空家が増えることは治安の悪化や観光資源の低下につながりますので、空家問題の解決と関連させ具体的な手立てを考えられないでしょうか。例えば、空家のリフォームやリノベーション費用を市が50パーセント補助し、賃貸物件として整備することや、市が買い取って活用するなど考えられないでしょうか。空家の所有者は高齢者が多く、適正管理や処分ができずに困っている場合もあるため、市の支援が必要ではないでしょうか。

【モニターB氏】

現状でも安い物件はたくさんあり、それを更に無料にしますと言われても、仕事がなければ人は来ないと思います。

【モニターC氏】

市には観光、飲食、介護の仕事しかないように思います。観光に力を入れるのは大事ですが、雇用の創出等伊東に住む人達に対する施策も必要だと考えます。

【モニターA氏】

先日、県と市の依頼で東京の移住セミナーでお話させていただきました。首都圏の方は車を運転しない方が多く、移住に興味はあっても車生活への不安を感じるということでした。そのため、例えば移住して1年以内の人を対象にした運転教室があれば車生活の不安の解消にもなり移住者同士の交流のきっかけにもなるのではないのでしょうか。市の移住戦略の特色の一つなると考えます。また移住を考える方にとっては花火の多さよりも具体的な金銭的援助の方がありがたく、移住1年後や3年後に補助金を支給する等の具体策があると移住を決断するきっかけなるという声もありました。

政策目標の中でも「健康・子育て支援」が重要だと考えています。若い人が移住し、出産・子育てすることはお金がかかります。通常の妊娠・出産は健康保険が適用されず、公費負担があるものの自己負担費用も多く掛かります。もう少し費用補助があれば安心して出産できるのではないのでしょうか。また、市内には出産できる病院が2箇所だけであり助産院もありませんが、助産院のニーズはあると思います。

【モニターC氏】

伊東市民病院について、救急で受診した際に医師の対応が横柄だと感じました。市民からの良くない評判も聞きますので改善していただき、市民にとってこの病院、この先生に診てもらえれば安心だなと思ってもらえるような信頼される病院となってもらいたいと思います。

【モニターD氏】

現在進められている小中学校の再編に関し、対象校の保護者はスクールバスの運行があるのか等様々な不安を抱えています。課題を解決しながら今後再編が進んでいくものと思いますが、生徒数の減少に伴い部活動の選択幅が狭まったり、市外の学校へ出てしまったりといったことも生じていますので、小中学校の教育環境整備に力を入れていただきたいと思います。

【モニターE氏】

市内には企業の保養所や研修所がありますが、研究所の誘致を考えてはどうでしょうか。ただし、誘致するためには交通の利便性向上が不可欠であり、公共交通の整備をした上で研究所の誘致を積極的に行ってはどうかと考えます。

【モニターA氏】

伊東では車生活になり運動不足を痛感しています。温泉を生かした温水プールがあれば市民の健康増進に繋がるだけでなく、観光地としての魅力にもなります。また、文化施設も同様ですが、多くの利用者が見込まれる施設があれば人との交流が生まれ、移住者も伊東に住んで良かったと感じられるものと思います。

【モニターA氏】

先日の台風15号により被災しましたが、ホームページの状況の更新があまり無く、得られる情報も少なかったため、インターネットがなくても欲しい情報が得られる工夫があると良いと思います。伊東は自然に恵まれていますその分何か起きた時には被害が大きくなりやすい街だと思います。それでも移住者に安心感を持ってもらえるような施策をアピールできると良いと思います。

【モニターC氏】

厚生労働省の社会保障審議会で、要介護度1・2の方に対する介護サービス費の削減について審議されていますが、もしそうなった場合には在宅で自立して

生活する高齢者の負担が増えることを心配しています。各市町村で在宅の方に対する社会保障や高齢者が住みやすい環境整備をしてもらえるのでしょうか。

【中村副市長】

介護保険制度を継続的で持続可能な制度とするために、自己負担を増やす等の検討がなされているものと思います。本市としては高齢者が住み慣れた地域でいつまでも健康に暮らしていけるように生きがいつくりや介護予防を推進するとともに、介護が必要な状態になっても安心して暮らし続けることができるよう地域における支え合いの支援を進めてまいります。

【モニターC氏】

ごみのふれあい収集はとても素晴らしい取組だと思いますので、積極的に周知し、今後もずっと続けていただきたいと思います。

【中村副市長】

ふれあい収集では、家庭ごみをごみステーションに運び出すことが困難な高齢者や障がい者の方などを対象に、環境課ごみ収集職員が直接自宅に出向いてごみを収集しております。要介護認定を受けている方には担当ケアマネジャーと連携し、きめ細かに対応しているところですが、引き続き必要な方に御利用いただけるよう周知を図ってまいります。

【モニターF氏】

今後10年間の計画策定に当たり、若者の雇用環境整備が重要だと思います。若者が働くための施策に力を入れていただくとともに、商店街の空き店舗活用に関する施策を充実させていただきたいと思います。

消防団について、どの地区も若年層の人数の減少により団員確保が困難となっています。また、災害時等に実際に活動できる人数はとても少ないと感じています。消防団組織を整理し、定数を縮小するなどして確実に活動できる人員を確保することで、報酬や待遇を手厚くしていただければと考えます。

【中村副市長】

各分団においては団員確保に大変な苦勞をされていることは承知しており、市長夜警激励において若手団員の声を聞きながら、魅力ある消防団作りについて検討を進めているところです。

若者の起業支援施策につきましては、起業支援及び空き店舗対策事業を整備しており、若者で条件に当てはまる場合には最大200万円の補助を受けることができます。これら制度のPRを積極的に行ってまいります。

【モニターA氏】

補助制度があってもいきなり移住して起業するのはハードルが高いため、体験移住や体験開店のようなことができる場があると良いと思います。金銭的補助だけでなく、移住し起業することに対して具体的にイメージできるようなフォローがあると良いのではないのでしょうか。

【モニターB氏】

「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」資料に掲載の、2060年の伊東市の推計人口に大変衝撃を受けました。自然豊かで温泉のある場所は他にもあります。その中でも伊東に来るとより良いことがあると思わせたい、その流れを作った上で、子育て支援や各種支援は最後に背中を押してくれるものと思います。

伊東が他よりも良いと思わせる方法として「最先端リゾートタウン」というコンセプトを打ち上げてみてはどうでしょうか。高齢化社会の様々な問題を解決するような最先端技術のテストマーケティングを誘致することでレベルの高い人たちの関心を引き伊東に行ってみようと思わせ、その時に空家活用や子育て支援で後押しするような流れを作りたい。もっと高いビジョンを打ち上げることが10年計画には必ず必要だと思います。

【モニターA氏】

ブランディングは大事です。温泉や自然がある街は日本各地にありますので、他との差別化、伊東ならではの何かがあることが大事です。

【モニターG氏】

伊東市民の優しさや、誰に対しても優しい街となるような環境を整備し、アピールできれば良いと思います。

【モニターH氏】

市民の方でも知らない観光イベントがあるので、市内外への情報発信の強化が必要だと思います。

市内企業が外国人雇用を進めるに当たり、補助金や外国人研修生向けに空家

を貸出すなどの制度があると助かります。

【モニターF氏】

イベントの周知方法については時代とともに手法が変わり、直接色々な所に向いてキャンペーンを行う機会が少なくなりました。しかし、かつてのように外に出て直接お客様と顔を合わせることも観光には大事なことではないかと感じています。もっと外に出る機会を増やし宣伝したいと思います。

【モニターA氏】

移住セミナーでも直接顔を合わせて話をするからこそ体験移住予約に繋がったと感じますので、同じく観光PRについても直接会うことは必要だと思います。

他との差別化という点で、新鮮な農産物や海産物等が買える場所等、伊東に引越した後の生活に必要な移住者向け情報についてもホームページ等で得ることができる魅力に繋がるものと思います。

【市政戦略課長】

本市では今年度、移住検討者の要望に沿った現地案内を実施し、市の魅力を伝えながら移住後の生活イメージを持っていただくための現地ナビゲート事業を実施しております。スーパー等移住後の生活に必要な場所についてもご案内しながら不安の解消に繋げてまいります。

【モニターA氏】

移住者へのアフターフォローとして、移住して1年以内の人向けにも実施していただけると、実際に住んでみて生じた疑問の解決が図れ、交友関係を広めることができ良いと思います。

【中村副市長】

市としても移住した方からのお話を聞く機会として必要だと思います。

【モニターE氏】

森林が持つ保水力は土砂災害防止に役立っていると思います。木を伐採して斜面をコンクリート化することは、防災上効果があるのでしょうか。かえって危険になっているということはないのでしょうか。

八幡野のメガソーラー建設については土砂災害防止を考えなければいけない

時代に逆行しているのではと思いますが、現在の状況とどのように阻止する方針なのか伺います。

【市長】

当該工事について本市では宅地造成等規制法に基づく工事の許可をしており、静岡県においては森林法に基づく林地開発の許可を出している状況です。しかしながら本市では「伊東市美しい景観等と太陽光発電設備設置事業との調和に関する条例」の適用となるものと判断しており、これまでに条例に基づく指導、勧告及び公表を行ってまいりました。また、事業者による八幡野川に係る占用申請に対し、本市がその占用を許可しないとした処分により現在のところ工事は止まっている状況です。本市としては当該工事について同意しないという姿勢で引き続き対応してまいります。

以 上